工事説明書

ガスふろがま

品　名　　GSY-1200P, GSY-1300P, GSY-132M, GSY-132D

■工事される方へお願い

- この工事説明書の記載内容をはずれた設置が原因で生じた故障及び損傷は、保証期間内であっても有料修理になります。
- 工事終了後、「工事後の点検 」のチェックリストに基づいて再確認して下さい。
  「試運転」と「お客様への取扱説明」を行って下さい。（お客様からのクレーム防止のため、必要です。）
- 工事終了後、取扱説明書（保証書付）の保証書に必要事項を記入し、必ずお客様に渡して下さい。

工事後の点検　工事が終わったら、チェックリストに基づいて必ず再確認を行う。

●チェックリスト

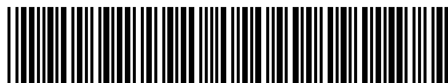
点検項目		点　検　内　容	参照ページ	ﾁｪｯｸ
機器及びその周辺	ガ　ス　種	銘板は使用するガス種に適合していますか。	2	
	不燃材料以外の材料との離隔距離	不燃材料以外の材料との離隔距離、火災予防上の措置は十分ですか。	3,4	
	設　置　条　件	障害物、窓などとの離隔距離は十分ですか。	4	
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか。	4	
	安　定　設　置	強固に設置され、ガタツキはないですか。	5,6	
	給　排　気	十分給排気できる場所に設置されていますか。	3,4	
循環パイプ		勾配の基準をまもっていますか。	6	
		接続部からの水漏れはありませんか。	6	
ガス接続工事		接続は正しく施工され、ガス漏れはありませんか。	14	
試運転		試運転は正常でしたか。	15	
お客様への説明		正しく快適に使用してもらうため、説明しましたか。	1	

試運転

15ページに基づいて、必ず試運転を実施して正常に運転することを確認する。

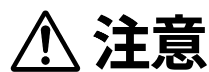
お客様への取扱説明

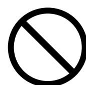
- 取扱説明書に従って「使用方法」を説明する。
  特に取扱説明書の「必ずお守りください（安全上の注意）」をよく説明する。
- 保証書に必要事項を記入する。
  また、取扱説明書の「アフターサービスについて」を説明する。
- 取扱説明書（保証書付）をお客様に渡して下さい。



SAP8322⑦

1.安全上の注意

工事を誤った場合に危害・損害の程度を、次のように区分しています。 いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守る。	
	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

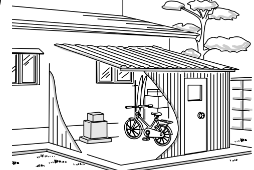
 一般的な禁止　　 必ず行うこと



● 屋外設置形です。
屋内（浴室内含む）への設置は絶対にしない。
また、波板などによって簡易な囲いもしない。
一酸化炭素中毒の原因になります。









- 機器を正しく安全にご使用いただくため、この工事説明書をよく読んでから、指定された工事を行う。
- （財）日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」を参照する。
- 積雪で機器の給気口及び排気トップがふさがれる恐れがある場合は、防雪の措置を行う。
- 機器の設置・移動及び付帯工事には専門の資格・技術が必要です。工事は必ずお買い上げの販売店または専門業者に依頼し、有資格者による正しい工事を行う。
- 設置工事が終わったら、この工事説明書に基づいて設置されていることを確認する。



- 銘板（ラベル）に表示してあるガスの種類（ガスグループ）で使用する。ガスが適合していることを確認する。
- この機器は、おふろ沸かし以外には使用しない。
  機器の故障の原因となります。
- 業務用のような使いかたをしない。
  家庭用機器ですので、業務用など長時間使用すると、機器の寿命が極端に短くなります。
- 温泉水、井戸水、地下水は使わない。
  水質によっては、異物が付着したり、腐食して水漏れすることがあります。この場合は保証期間内でも有料修理になります。

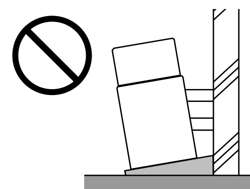
（12A,13A の場合）

型式　○○○○○○
設置の方式　○○○○○○
都市ガス用
13A　12A

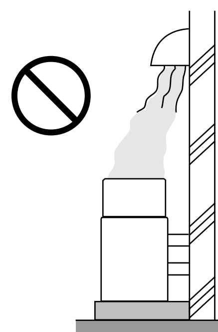
製造年　製造月

2.設置場所の確認

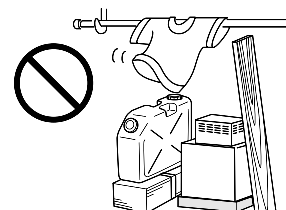
⚠ 注意



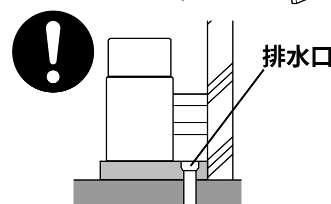
- 設置する場所の周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか
  または防火上有効な間隔をとることができる場所に設置する。
- 平らな安定した場所に設置する。
- ガスメーター・ガス配管・ガス容器などの点検に支障のない場所に設置する。
- 周囲に障害物がなく、空気の流れが停滞することのない場所に設置する。
- 換気扇・レンジフード・エアコンなどの吹き出し口が給排気に影響を与えない場所へ設置する。



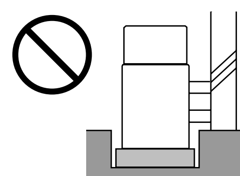
- 隣家に、運転音や熱風の吹き込みなどの迷惑がかからない場所に設置する。
- 人の出入りの激しい所、燃えやすい物に近い所へは設置しない。
- 階段・避難口近くへは設置しない。
- 引火性危険物（ガソリン・ベンジン・接着剤など）取り扱い場所または腐食性ガス（アンモニア・塩素・イオウ・エチレン化合物・酸類）の発生する場所には設置しない。
  故障や火災の原因になります。



- 水平で水はけの良い場所に設置する。
  水はけが悪く雨の後などで機器の設置面に水が溜まると機器底面が腐食し、思わぬ事故が発生します。
- 排気ガスが浴室内へ流入しないようにする。
- 保安点検に必要なスペースが確保できるか確認する。



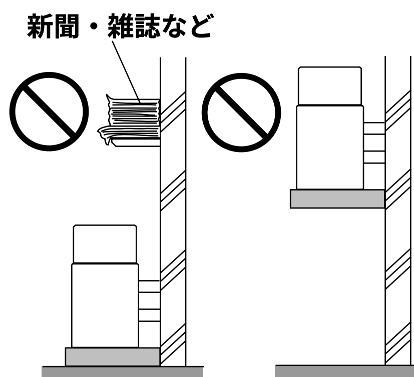
- 塩害が考えられる地域（海に近く潮風が当たりやすい地域）での注意
  機器本体の設置は建物の風下にする。
  やむを得ず、海岸面に設置する場合でも防風板を設けるなどで、直接潮風が当たらないようにする。
  水はけの良いところに設置する。
- 機器の近くに排水口を設けて、機器が水没しないよう設置する。



- 落し込んで（ピット）設置しない。

※万一、落し込んで設置する場合は、ピット内に必ず排水口を設ける。
  また、給気口をふさがないように設置する。

- 砂や綿など、ほこりのたちやすい場所には設置しない。
  ほこりが給気口をふさぎ、不完全燃焼の原因になります。
- 棚の下など、落下物の危険のあるところには設置しない。
- 壁面から据え付け台を突き出して設置しない。
- 排気ガスが、直接建物の外壁や窓・網戸・アルミサッシなどに当たらないように設置する。また、動植物への影響も考慮する。
  変色・破損・腐食、動植物への危害の原因になります。
- その他、地域によって火災予防条例に規制される項目がある場合、その条例に従って設置する。



3.機器の設置基準

⚠ 注意

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">注意事項と説明図</th></tr>
<tr><td rowspan="2">不燃材料以外の材料との離隔距離</td><td colspan="2">※施工される前に以下のことを確認する。
燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や電気設備技術基準・ガス事業法・液化石油ガス法・消防法に基づく火災予防条例に定める防火処置を施す必要があります。
次の事項の他、当該地区の市・町・村火災予防条例に従う。

● 機器と「不燃材料以外の材料による仕上げをした建築物などの部分」とは、次の離隔距離をとる。
(　)内は防熱板及び「不燃材料で有効に仕上げをした建築物などの部分」との寸法です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">150以上
(45)
600以上
(300)
150以上
(45)
(単位：mm)
設置する床面が不燃材料以外の材料の場合は、不燃材料で仕上げるなどの防火処置を施す。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">設置場所の周辺について</td><td>● 排気ガスが建物の中に入らないよう、開口部のない場所に設置する。
※排気口と開放可能な窓・換気口など・建物開口部との離隔距離は右記の基準を守る。
換気扇の排出部・熱交換形換気扇の給気口は、燃焼排ガスが流入する恐れのある開口部にあたります。

※隣家の窓付近などに排気ガスが吹き付ける位置には、設置しない。</td><td>(単位：mm)
上方の窓
この投影部内に窓などの建物開口部がないこと
側方の窓
150以上
150以上
600以上</td></tr>
<tr><td>● 機器の修理・点検のため、機器前方（ガス接続口のある側）は、600mm以上の空間を設ける。

● 機器の修理・点検が困難な場所には設置しない。
また、機器の脚は絶対にセメントなどで埋め込まない。
修理・点検ができなくなります。</td><td>600以上
(単位：mm)</td></tr>
</table>

4.付属部品の確認

※梱包内には取扱説明書（保証書付）、工事説明書の他に下記の付属部品が入っております。
取り付けの前に確認する。

●共通

部品名	形状	個数	部品名	形状	個数
連結ゴム		2	締付バンド		4

●各シリーズ

部品名	個数
・マジコンP････ GSY-1200P ,GSY-1300P用 ・マジコンM････････････････ GSY-132M用 ・RC-325ST････････････････ GSY-132D用	一式

●GSY-132Dのみ

部品名	形状	個数	部品名・形状・個数
単1乾電池		2本	壁パッキンセット 壁パッキン×1 クランプ×2 タッピンネジ×2（φ4×12） オールプラグ×2（＃6×25） スリップ防止パッキン×1 木ネジ×2（φ4.1×25）
電池ケースセット		一式	

5.機器の設置

※設置時、落下させたり、衝撃を加えたりしない。機器内部の部品が破損することがあり危険です。

項目	注意事項と説明図
据え付け台について	●据え付け台を設ける場合は、機器の底面積より十分大きく、壁まで設ける。 ※以下のような場合、強風時に不完全燃焼などの原因になります。（右下図参照） （1） 据え付け台の中央部に空間がある。 （2） 据え付け台と壁の間に空間がある。 壁まで設ける (1) (2) 空間がある

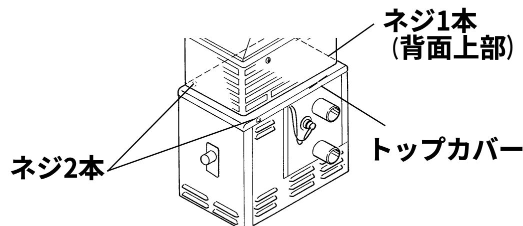
項目	注意事項と説明図
浴槽と循環パイプの取り付け	● 保守・点検がしやすいように、現場の条件に合わせて循環口方向を決める。 →循環口方向を変更する場合は、8ページの「循環口方向の変更方法」を参照。 ● 下部循環口の高さは、浴槽底部から100mm程度が標準です。 また循環口の間隔は、120mm位にする。 ● 循環パイプは、必ず上部は「上り勾配」、下部は「下り勾配」に取り付ける。 ※循環パイプは付属していません。 現場で手配する。 ※上部循環パイプが逆勾配になる《下図例(1)参照》と、循環不良を起こし、お湯が熱交換器内で沸騰して「ボコン、ボコン」と異音が発生したり、消火します。 ※下部循環パイプが逆勾配になる《下図例(2)参照》と、機器内の水が排水されないため、機器内の凍結・破損の原因になります。 ● 機器の循環口と循環パイプを、連結ゴム・締付バンドを使用して取り付ける。 ● 連結ゴムと循環口及び循環パイプの接続部から水漏れがないか確認する。 (単位：mm) 上部循環パイプ(現場手配) 下部循環パイプ(現場手配) 上り勾配 下り勾配 10〜20 120 (100) 100 160 30以上 25以上 締付バンド(付属部品) 連結ゴム(付属部品)
悪い設置例	(1) 上部循環パイプが逆勾配 (2) 下部循環パイプが逆勾配 (3) 浴槽と機器の高さのずれ

6.循環口方向とワイヤー取出口または配線取出口の変更方法

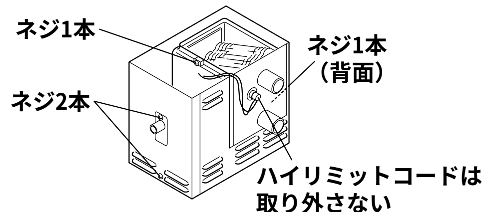
■ 循環口方向の変更方法

下記の方法で、左循環口、後循環口への循環口方向の変更ができます。

1. トップカバー固定ネジ3本を外し、トップカバー、排気トップを取り外す。

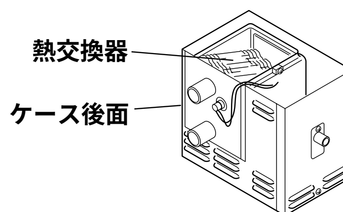


2. フロントカバー固定ネジ2本を外し、フロントカバーを取り外す。
機器内のネジ1本と背面のネジ1本を外す。
（ハイリミットコードを引き出す。）



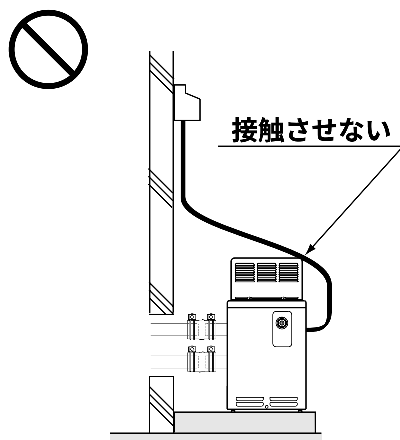
3. 熱交換器にケース後面が付いた状態で持ち上げて外し、循環口方向を変更して取り付ける。逆の手順でフロントカバー、トップカバー、排気トップを取り付ける。
（左循環口にした場合は、ハイリミットコードの取り出しも左側にする。）

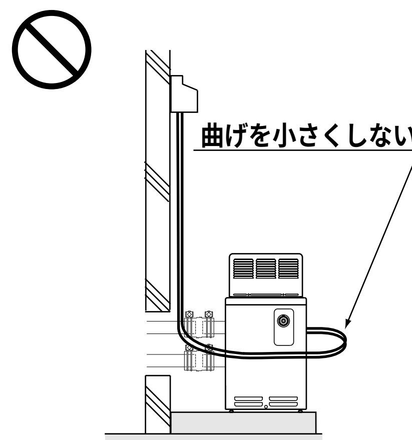
※ ハイリミットコードをケースにかみ込むなどして、断線させない。



GSY-132M、GSY-132Dの場合

4. 左循環口に変更した場合はワイヤー取出口または配線取出口も変更する。
マジコンワイヤーやリモコンコードが、排気トップに接触して熱損傷したり、マジコンワイヤーの曲げが小さく動きが固くなると、マジコンやリモコンの操作ができなくなります。（下図参照）
後循環口に変更した場合も上記の恐れがある場合はワイヤー取出口または配線取出口も変更する。
変更方法は、次ページの「ワイヤー取出口または配線取出口の変更方法」を参照。





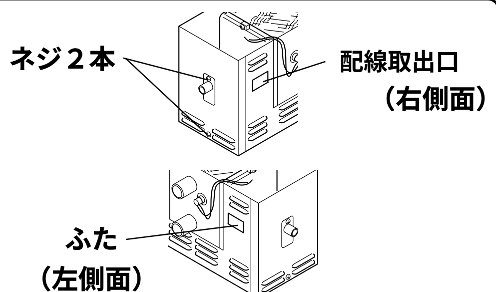
■ワイヤー取出口または配線取出口の変更方法（GSY-132M、GSY-132Dの場合）

＜GSY-132Dの場合＞

1.フロントカバー固定ネジ2本を外し、取り外す。
　また、右側面の配線取出口のネジ1本を外し、ふたを外す。
　（右図参照）

2. 左側面のネジ1本を外し、ふたを外す。（右図参照）

3. 左側面よりリモコンコードを取り出し、1.で外した、配線取出口のふたを取り付ける。 右側面には2.で外した、ふたを取り付ける。



＜GSY-132Mの場合＞

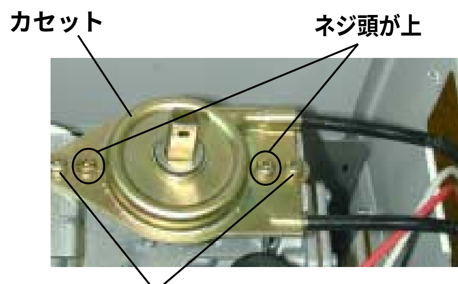
ワイヤーと点火メータコードの取り出し方向も変更する。

1. フロントカバー固定ネジ2本を外し、フロントカバーを取り外す。また、右側面のワイヤー取出口のネジ1本を外し、ふたを取り外す。

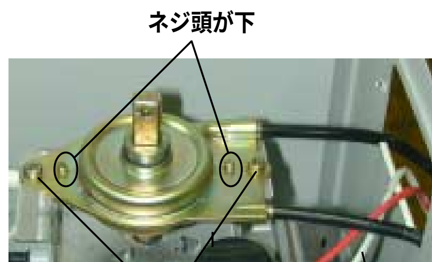


2. カセットを固定しているネジ2本を外し、取り外す。
　※出荷時、カセットに組み付けのネジ頭が上になっている場合と、ネジ頭が下になっている場合があります。カセットを取り外す前にどちらの向きになっているか確認する。（下図参照）
　4.で再度組み付ける時には、出荷時と同じ向きにする必要があります。

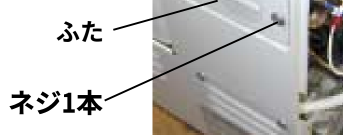
ネジ頭が上になっている場合



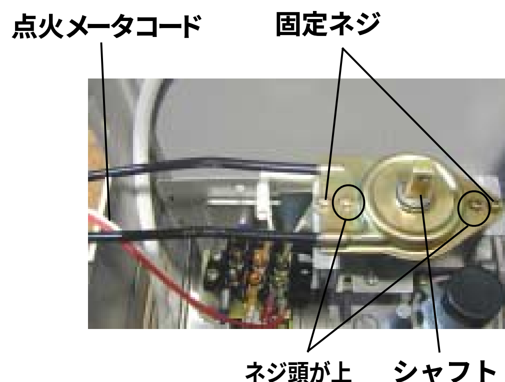
ネジ頭が下になっている場合



3. 左側面のネジ1本を外し、ふたを外す。



4. カセットを左側面より差し込み、2.で確認した向きと同じになるように取り付け、2.で外したネジで、固定する。（右図はネジ頭が上の例です）
　逆向きに取り付けると、シャフトが逆回転し、リモコン操作ができません。



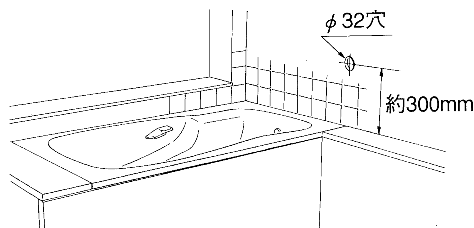
5. 点火メータコードの引き出しを、右側面から左側面に変更する。

6. 右側面にはふたを、左側面にはワイヤー取出口のふたを取り付ける。

7.マジコン・リモコン設置工事

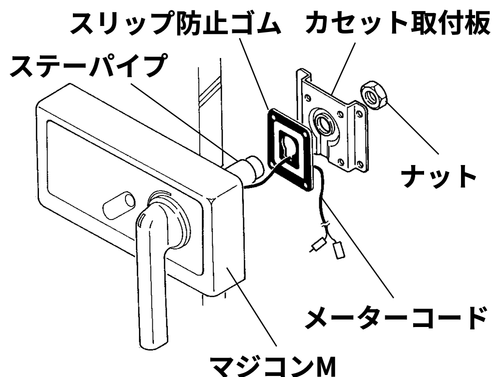
■マジコンM（GSY-132M用）の場合

1. 壁にφ32mmの穴をあける。

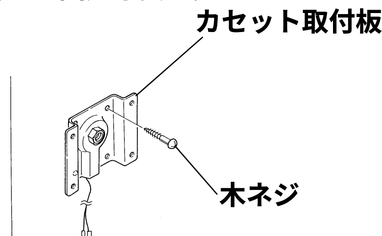


2. 壁パッキンのハクリ紙（両面）をはがし、ステーパイプ・メーターコードを通し、マジコンを壁に貼り付ける。
(ステーパイプが、壁面より約20mm出るように長さを調節する。)

3. 外壁側からスリップ防止ゴム（両面のハクリ紙をはがす）とカセット取付板をステーパイプに通し、ナットで締め付ける。

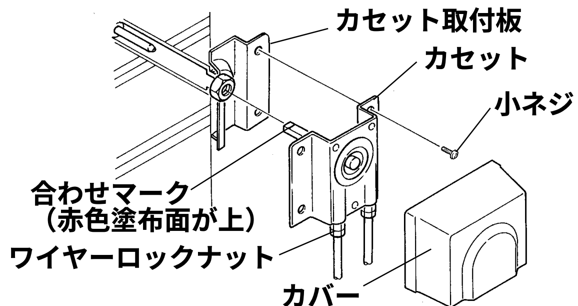


4. ゆるみ防止のため付属の木ネジ4本で固定する。（コンクリート壁などで木ネジが取り付けできない場合は、固定不要。）

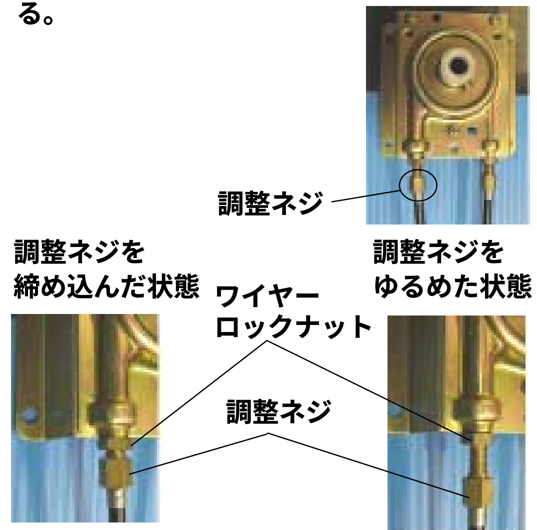


5. ナットを締め付けた後、マジコンが正しく取り付いているか、ハンドルが「0」の位置になっているか確認する。

6. 機器本体側からの、カセットの合わせマークの赤色塗布面を上にして軸を差し込み、カセットを付属の小ネジ4本で固定する。

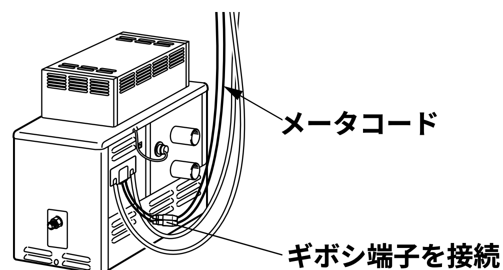


7. ワイヤーは調整不要ですが、ワイヤーの曲がりが急で遊びがない場合は、ワイヤーの張りを調節する。調整ネジをゆるめると、張りが強くなり、操作が固くなります。ねじ込むと張りが弱くなり、操作が軽くなります。調節後は、必ずワイヤーロックナットを締め付ける。



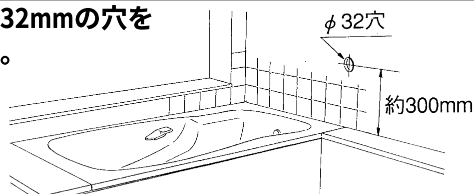
8. カセットにカバーを上から差し込む。

9. 機器から出ているギボシ端子に、メーターコード先端のギボシ端子を接続する

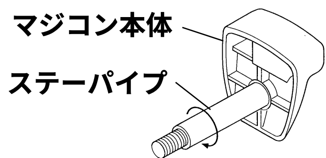


■マジコンP（GSY-1300P、GSY-1200P用）の場合

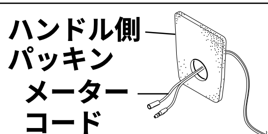
1. 壁にφ32mmの穴をあける。



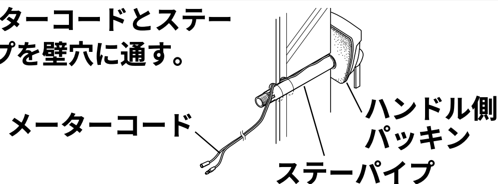
2. マジコン本体にステーパイプをねじ込む。



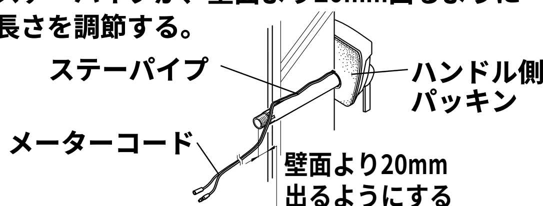
3. マジコン本体のハンドル側パッキンに、メーターコードを通す。



4. メーターコードとステーパイプを壁穴に通す。



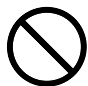
5. ステーパイプが、壁面より20mm出るように長さを調節する。

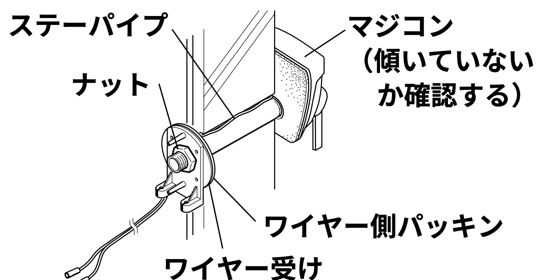


6. ワイヤー受けにワイヤー側パッキンを貼り付ける。（両面のハクリ紙をはがし、穴位置を合わせて貼り付ける。）（下図参照）

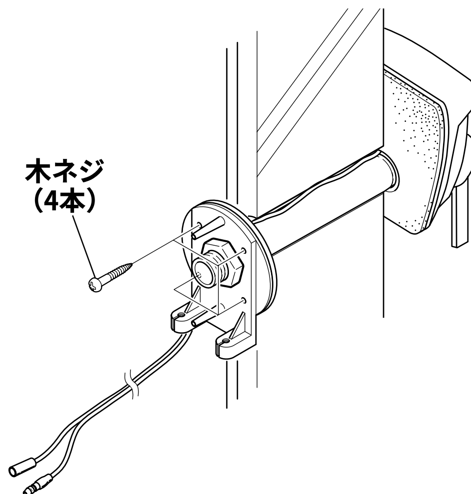
7. ステーパイプにワイヤー受けを通してナットで締め付ける。マジコンが傾いていないか確認する。

※ ワイヤー受けと壁面にスキマがあると、ワイヤー受けがガタツキを生じますので平らな壁面に取り付けて下さい。壁面との間にスキマを生じる場合は、スキマをなくすような処置する。

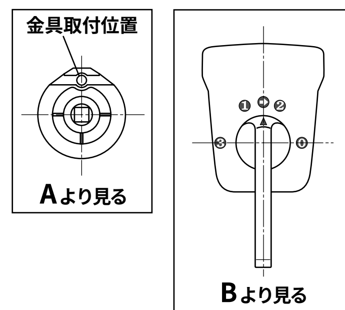


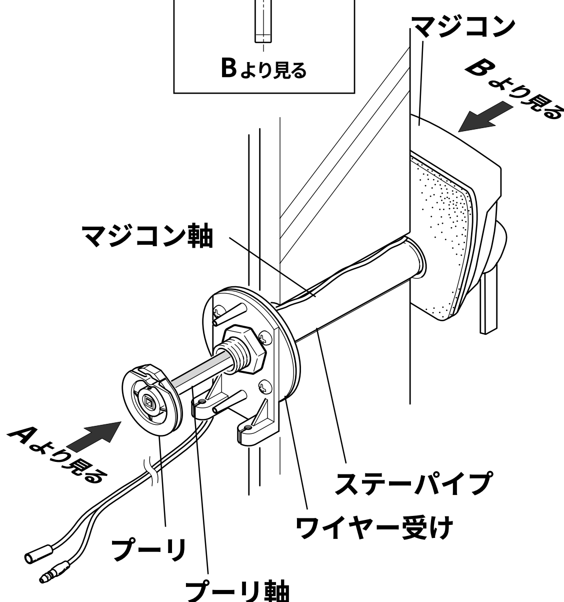


8. 木ネジを取り付けできる場合は、ゆるみ防止のため、マジコンに付属の木ネジ4本で固定する。



9. プーリの金具取付位置が真上の状態（ハンドル側から見ると①と②の間にハンドルがある状態）にしておき、プーリ軸を黒色塗布面が上にくるようにして、マジコン軸に差し込む。



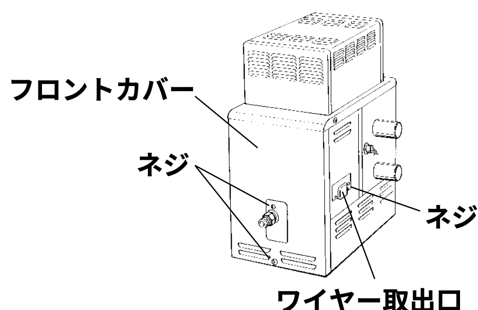


黒色塗布面が上にくるようにする。

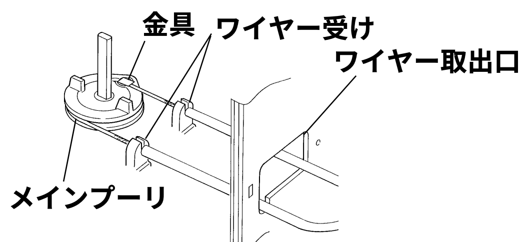
10. ワイヤーを、機器側に接続する。

①ネジ2本を外しフロントカバーを外す。

②ネジ1本を外し右側面のワイヤー取出口を外す。

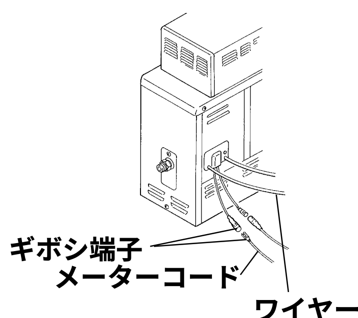


③ ワイヤー取出口よりワイヤーを機器内部に入れ、ワイヤー受けに通して機構部のメインプーリにワイヤーの金具をはめ込む。



④ 機器から出ているギボシ端子を、メーターコード先端のギボシ端子と接続する。機器側のギボシ端子は下図のようにワイヤー取出口より取り出す。

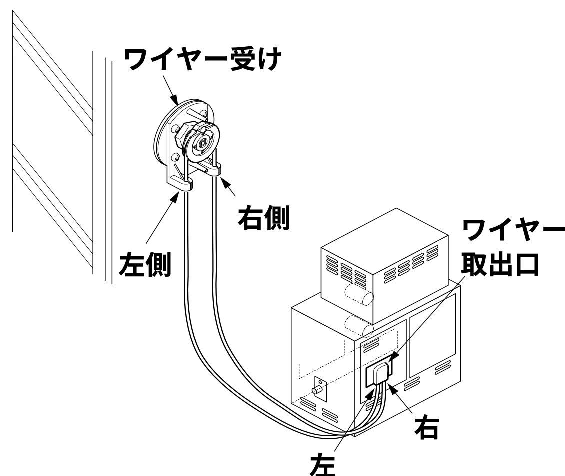
※イラストは、フロントカバーとワイヤー取出口のふたを組み付けた状態です。



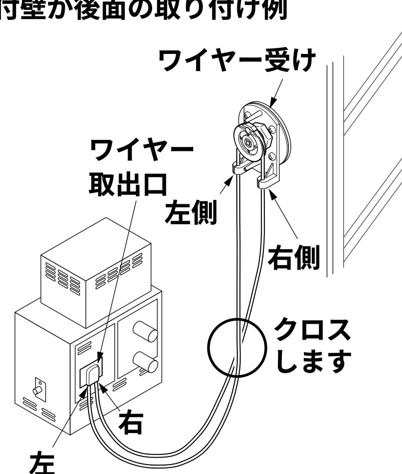
11.ワイヤーを、マジコン側に接続する。

①ワイヤー取出口右側のワイヤーはマジコンのワイヤー受け右側に取り付ける。
下図を参考にワイヤーの取り付け位置を確認する。

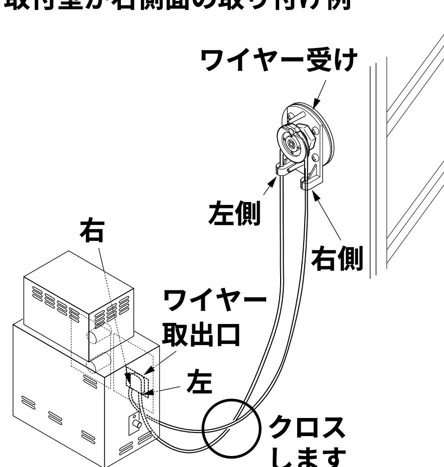
マジコン取付壁が左側面の取り付け例



マジコン取付壁が後面の取り付け例

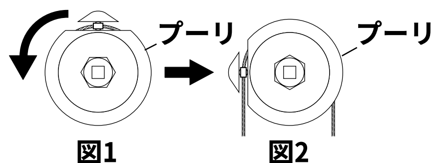


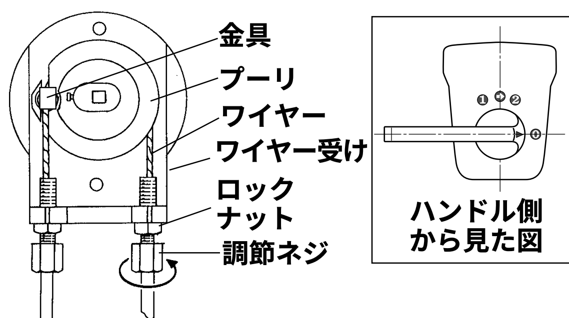
マジコン取付壁が右側面の取り付け例



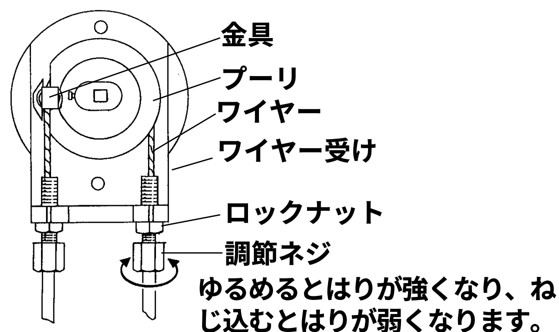
②調整ネジをワイヤー受けに十分にねじ込む。
③ワイヤーの金具をプーリにはめ込む。

※プーリを左へ90°回して図1から図2の状態（ハンドル側から見ると「0」の位置）にして金具を取り付ける。



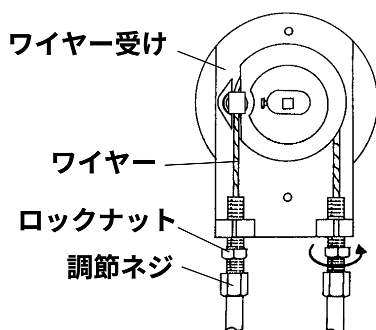


④調整ネジを回してワイヤーのはり具合を調整する。

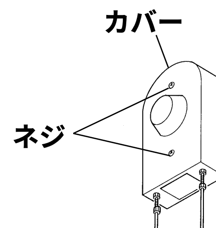


調整ネジをゆるめすぎるとワイヤーがはりすぎになり、マジコンハンドルの操作を固くしますので、必ずハンドルを操作しながらはり具合を調節する。

⑤ロックナットで固定する。



⑥ワイヤー受けにカバーを取り付け、ネジで固定する。

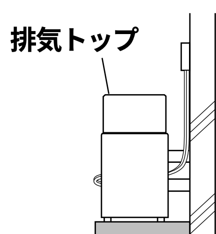


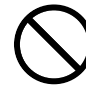
12.フロントカバーとワイヤー取出口のふたを、元通り組み付ける。

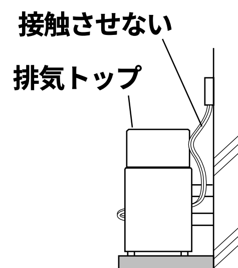
あまったワイヤーを小さく曲げてまとめると、マジコンハンドルの操作が固くなりますので、曲げを十分大きくとる。

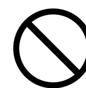
※ワイヤーが排気トップへ接触しないように、また、排気ガスで加熱されないようにする。

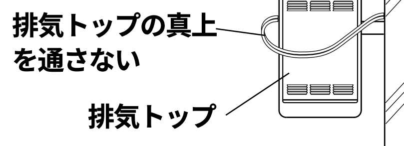






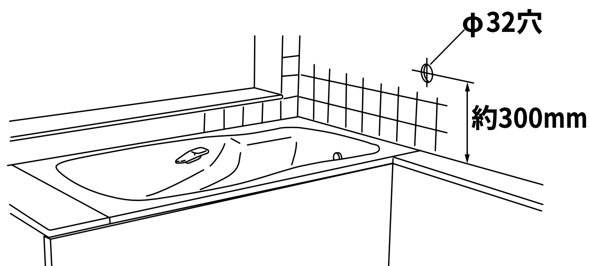




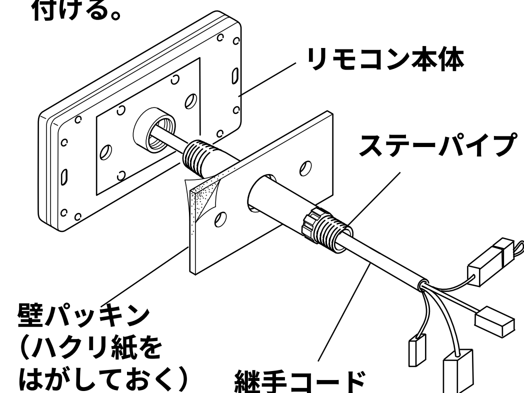


■RC-325ST（GSY-132D用）の場合

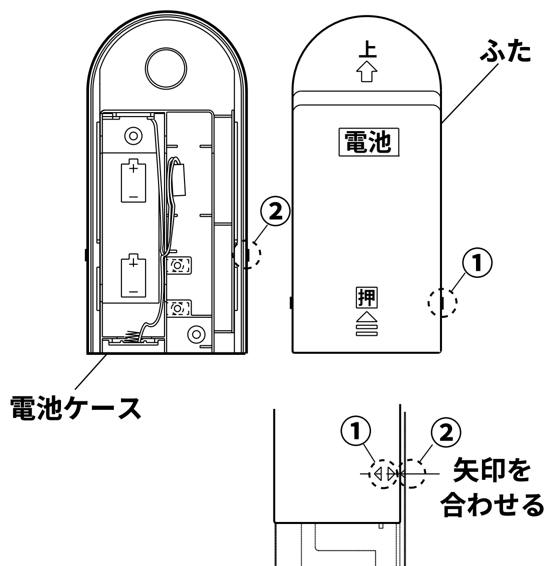
1. 壁にφ32mmの貫通穴をあける。



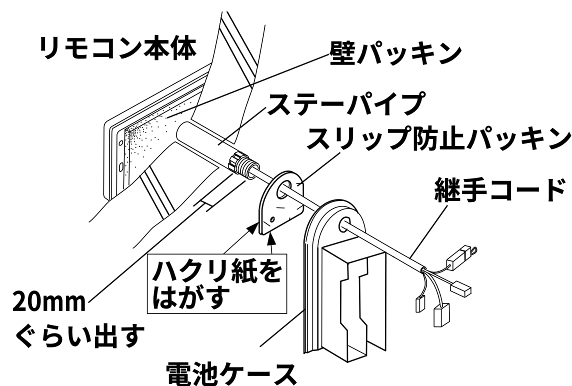
2. ステーパイプに継手コードを通し、リモコン本体にねじ込む。
次に、壁パッキンの両面のハクリ紙をはがしてステーパイプに通し、リモコン本体に貼り付ける。



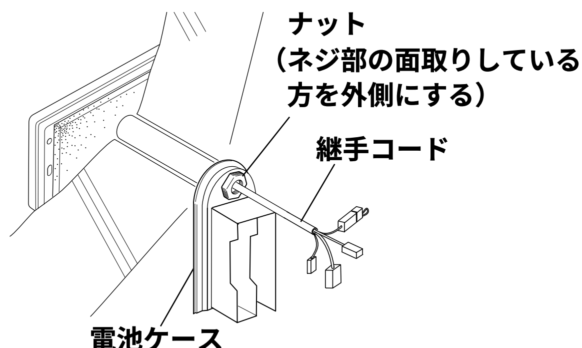
3. 電池ケースの印部を押しながら、上にスライドさせて、矢印位置（①②）が合う位置でふたを外す。



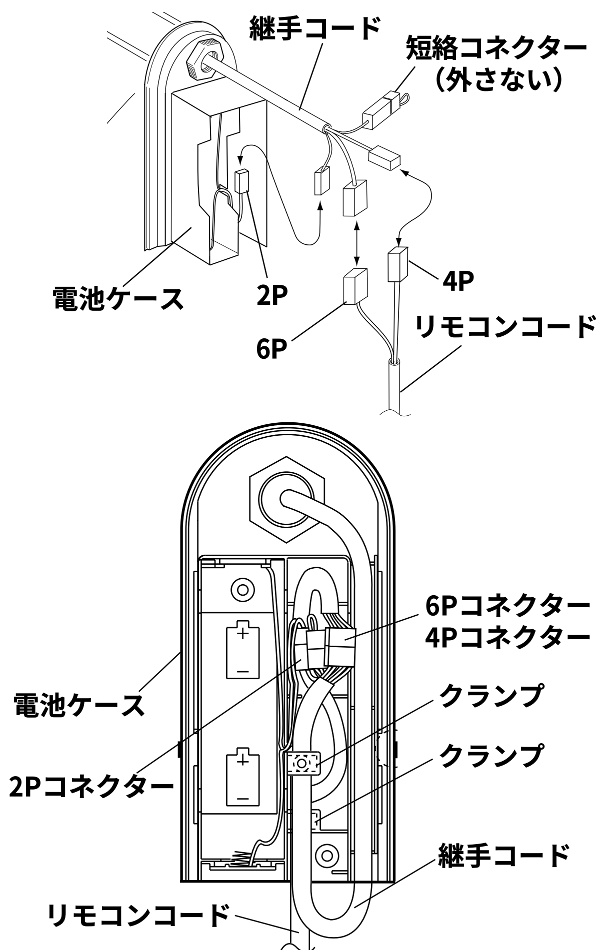
4. 浴室側壁穴より、継手コードとステーパイプを挿入し、リモコン本体を壁に貼り付ける。
スリップ防止パッキンのハクリ紙をはがして電池ケースに貼り付ける。外壁から出た継手コードとステーパイプに、電池ケースを通す。



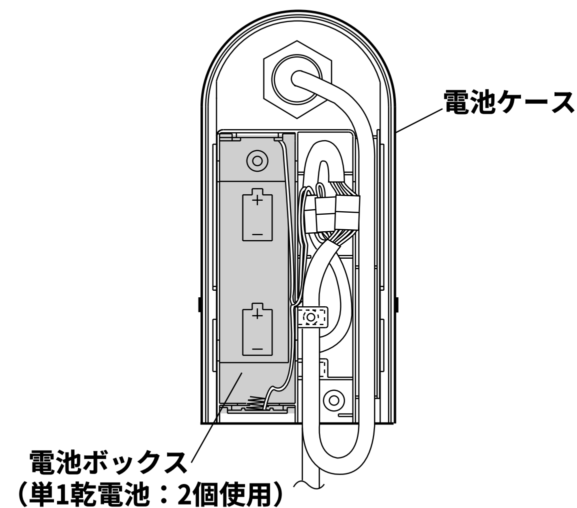
5. 継手コードにナットを通し、ステーパイプを締め付ける。この時、電池ケースのふたの矢印が上を向くように固定する。



6. 機器からのリモコンコードと、継手コードをクランプ2ヶで止め、コネクター2ヶ(6P・4P)を接続する。また、継手コードと電池ケースのコネクター(2P)を接続する。
※短絡コネクターは外さない。



7. 付属の単１乾電池２個を、電池ボックスに入れる。
電池の＋極と－極を、電池ボックスの表示にあわせて、奥までしっかりとはめ込む。

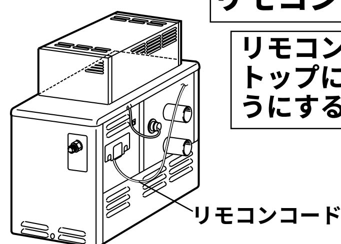


8. 3の逆の手順で、電池ケースのふたを閉める。

※線ガミが起こらないよう注意する。

リモコン施工時の注意

リモコンコードが排気トップに接触しないようにする



8.ガス配管工事

※ガス工事については、ガスの供給業者の指示に従う。

■ガス栓
- 機器を使用する場所にガス栓がない場合、あるいは、あっても位置や寸法などが適切でない場合には、新設・移設または交換などが必要ですので、ガスの供給業者にご相談のうえ、専用のガス栓を取り付ける。

■ガス接続について
- この機器は、強化ガスホースまたは金属可とう管で接続します。ゴム管は使用しない。
- ガス配管口径は、機器の接続口径以下にしない。
- 配管接続後、接続部のガス漏れを調べる。
- ネジ接続のガス配管工事については、有資格者による工事が必要です。

■ガスメーターについて
他の燃焼機器と同時に使用しても、機器に十分ガスが供給できるガスメーターを取り付ける。

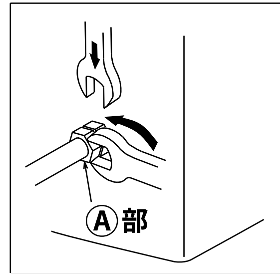
■LPガスの容器について
LPガスの容器は50kg 2本を併用する。
また、機器から2m以上離して設置する。

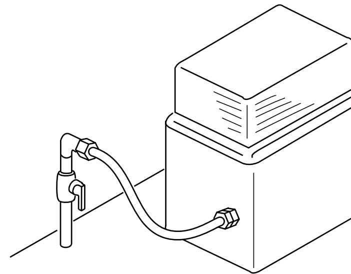
※強化ガスホースまたは金属可とう管の長さは、ホースに異常な力がかからないように注意する。
※曲げ半径は90mm以上で接続する。

(1)強化ガスホースまたは金属可とう管のオネジ部にシール剤もしくはシールテープを使用し、ガス栓に強化ガスホースまたは金属可とう管を締めつける。
※ガス栓にも必ずスパナをかけて、強化ガスホースまたは金属可とう管を締めつける。

(2)機器側接続部に強化ガスホースまたは金属可とう管の袋ナット部を締めつける。
※袋ナット部に付属のパッキンが挿入されていることを確認する。
※袋ナットを締めつける時、強化ガスホース または金属可とう管がねじれないように、Ⓐ部及び、機器側の六角ボルト部にスパナをかけて袋ナットを締めつける。

(3)ガス栓を開とし、接続部にガス漏れのないことを確認する。



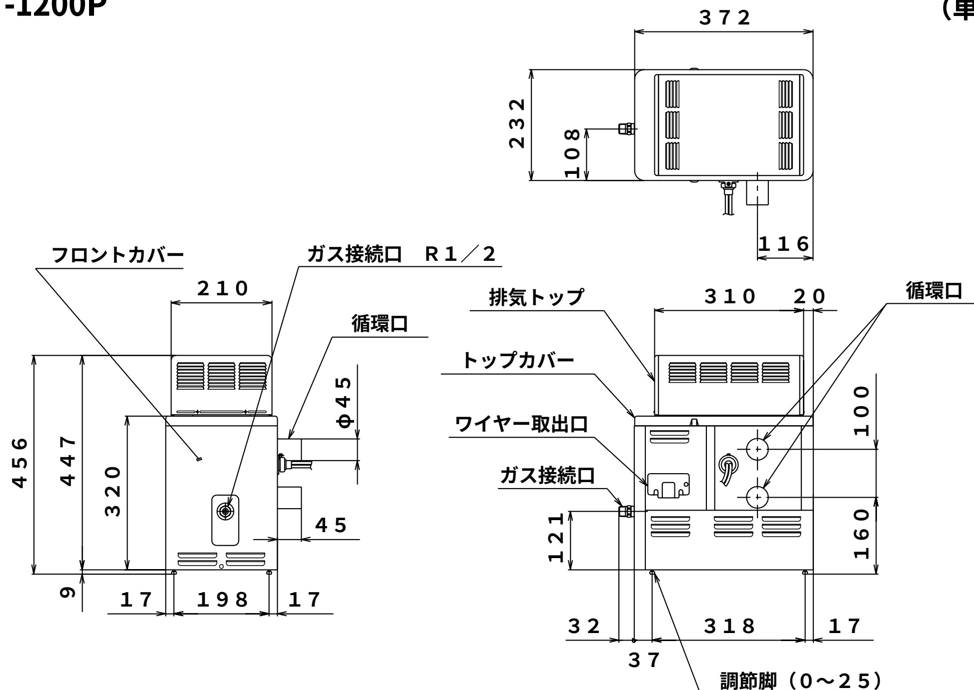


9.試運転

●取扱説明書に基づき試運転を行い、正常に作動することを確認のうえ、お客様に使用方法を説明して、取扱説明書を渡して下さい。
　※ 点火操作は、必ず浴槽に水を張ってから行う。
●正常燃焼しない場合は、取扱説明書の「故障・異常かな?と思ったら」を参照する。

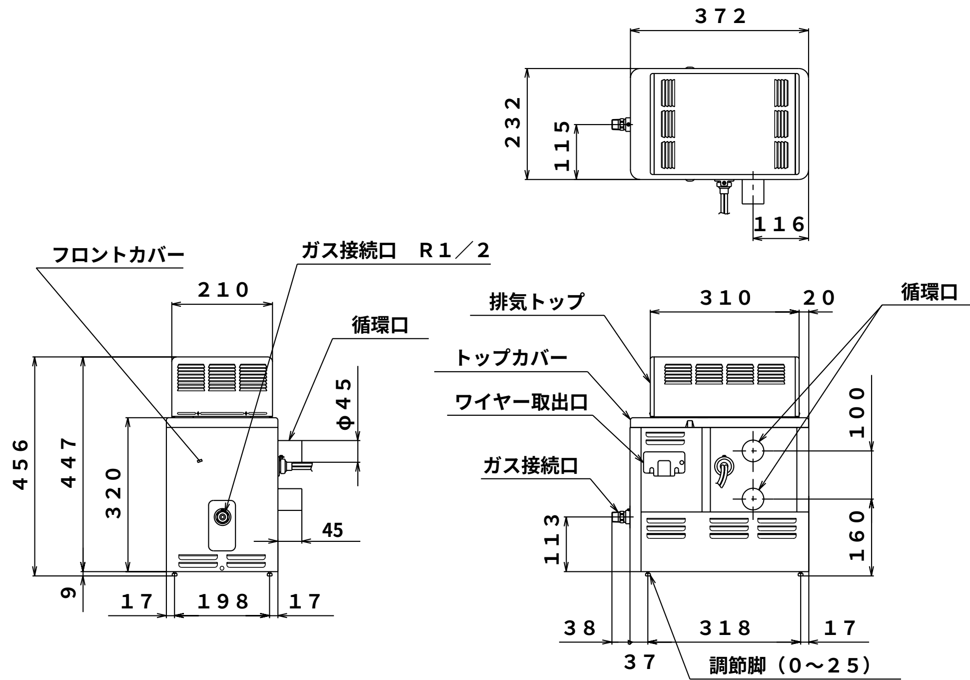
10.外形寸法図

● GSY-1200P　（単位：mm）



● GSY-1300P,GSY-132M

（単位：mm）



● GSY-132D

